

# 社会科教育

奈良県小学校教科等研究会  
社会科部会  
第74号

## 今こそ、社会科教育の充実を！

平成29年10月26日(木)・27日(金)  
第55回全小社研 奈良大会開催！

奈良県小学校教科等研究会社会科部会  
部会長 上田 啓 二



上田社会科部会部会長

平成27年6月17日、公職選挙法等の一部を改正する法律が成立し、選挙権を有する者の年齢が満18歳以上に引き下げられました。このことを受けて初の国政選挙(参院選)が本年7月10日に行われましたが、全体の投票率が約55%であったのに対して18・19歳の投票率は約47%と低調でした。また、投票に行った理由のトップが「18・19歳が初めて投票できる選挙であるから」で7割近くに上りました。「初物に参加できる」というイベント感覚があつてこの投票率であり、初物ではなくなる今後の選挙で、若者の関心をどう引きつけていくかが課題として残りました。

一方、我が国を取り巻く今日の社会情勢は、グローバル化の進展、少子高齢化社会の出現や環境問題の深刻化、国際社会における日本の在り方など、様々な分野において多くの課題を抱えています。こうした先行き不透明な社会を生き抜いていく小学6年生児童が6年後には、選挙権を持つこととなります。「必ず選挙に行く。」という強い社会参画の姿勢を培うとともに社会の諸課題を多面的、多角的に考察、公正に判断し有権者として責任ある一票を投じることのできる力の基礎を身に付けさせることが私たち小学校教員の責務です。そして、「社会生活についての理解を図り、我が国の国土と歴史に対する理解と愛情を育て、国際社会に生きる平和で民主的な国家・社会の形成者を養う。」(現行学習指導要領)ことを目標とする小学校社会科の果たすべき役割が益々重要になってきました。

平成28年8月1日、文部科学相の諮問機関・中央教育審議会の特別部会が2020年度から小中高で順次実施する次期学習指導要領の中間報告(審議のまとめ)を公表しました。これからの子ども達には、社会の進化を受け止め、発展させる資質・能力が必要だと指摘し、「知識・技能」「思考力・判断力・表現力」「学びに向かう力・人間性」の育成を3本柱に掲げています。学び方については、「アクティブ・ラーニング」の視点から学習過程を質的に改善することを目指すとしています。①学ぶ意味と自分の人生や社会の在り方を主体的に結びつけていく「主体的な学び」②多様な人との対話や先人の考え(書物等)で考えを広げる「対話的な学び」③各教科等で習得した知識や考え方を活用した「見方・考え方」を働かせて、学習対象と深く関わり、問題を発見・解決したり、自己の考えを形成したり、思いを基に構想・創造したりする「深い学び」です。また、「社会科においては従前から、小学校で問題解決的な学習の充実が求められており、それらの趣旨を踏襲する。そうした学習活動を充実させるための学習過程の例としては、大きくは課題把握、課題追究、課題解決の三つが考えられる。また、それらを構成する活動の例としては、動機付けや方向付け、情報収集や考察・構想、まとめや振り返りなどの活動が考えられる。」としています。

奈良県小社研では、昭和30年の結成以来、「問題解決的な学習」「児童の主体的な活動」「観察や調査、表現などを重視した体験的な活動」等を研究内容としてきました。今年度は、「自らの学びを深め、よりよい社会の形成に参画する力を育てる社会科学習―人の営みに学び、ねり合う学習を通して―を研究主題に設定し、「主体的・意欲的に追究する児童」「確かな知識を身に付けた児童」「自らの学びを深めた児童」を育成すること、よりよい社会の形成に参画する力を育てたいと考えております。つまり、奈良県小社研のこれまでの研究の蓄積、現在の取組そのものが、今、国が進めていこうと考えている小学校教育の方向性と合致するものであると考えています。

平成28年11月25日(金)、第63回奈良県小学校社会科研究大会を明日香村立明日香小学校で開催いたします。その研究成果と各分科会での提案、協議内容を弾みに、平成29年10月26日(木)・27日(金)第55回全国小学校社会科研究協議会研究大会(兼 第64回近畿小学校社会科教育研究協議会奈良大会)を開催し、奈良県社会科を全国に発信してまいります。1日目は、文部科学省初等中等教育局視学官 澤井陽介先生をお招きしての全体会を「なら100年会館大ホール」で行います。2日目は、会場別研究会を奈良市立飛鳥小学校、奈良市富雄第三小中学校、大和郡山市立筒井小中学校の3会場で行います。新学習指導要領の先行実施を目前に控え、これからの日本の教育の方向性について、社会科授業の勘所について学び合える絶好の機会になるものと確信いたしております。奈良県社会科教育がより一層発展し、子ども達の学びが深まりますよう多くの皆さまの参加、活発な意見交流をお願いいたします。

奈良県小学校教科等研究会社会科部会

平成27年度冬季研究大会

学年別分科会

平成28年2月12日 奈良県立教育研究所

第3学年部会

「工場ではたらく人々の仕事」

御所市立御所小学校

教諭 吉松 賢

【本実践における提案】

奈良県小学校教科等研究会社会科部会の研究主題を受けて、本単元では、よりよい社会の形成に参画する基礎的な力が育つた子ども像をイメージして研究仮説を立てた。それが、「地域の教材を中心に、人の営みにふれ学ぶことを通して得た知識を基に児童が話し合うことで、社会的な見方・考え方が深まり、よりよい社会の形成に参画する力が育つ。」という研究仮説になった。

また、教材を製菓業にした理由としては、地域に誇りや愛着を持てるものや、人との出会いがあるものを重視した。ねり合いに關しては、「なぜ、御所市では菓づくりがさかん



分科会での提案の様子

のだろう」と設定した。その中で、大切にすることが三点ある。まず、知識の習得、基礎基本を身につけさせること。二つ目に書く活動の充実。これは、知識の整理・考えの明確化につながる。と考えられる。最後に付箋の活用。これは、考えの比較・見直しを行うことができると考え、これらのポイントを押さえ、ねり合う活動を行った。

また、評価については、振り返りカードを有効活用し、児童の知識の習得状況や考えの変容を見取るようにした。また、ルーブリックを用いて評価を行った。展開の【みつめる】では、御所市で作られているものについて話し合い、何を学習の題材にするのか子どもたちと話し合った。そこで、製菓業に決め、三つの調べる視点を設定した。【調べる】では、その三つの視点、

「薬は何からつくられているのか。」「いつからつくられているのか。」「昔と今の薬の作り方の違いは。」を基に、三光丸の薬の博物館と、工場の見学へ行っただ。そこでは、原料にふれたり匂いを嗅いだり、持って帰ることもできた。その後、ここで調べたことから、再度アンケートを取り、子どもたちが質問したかったことをファックスで再質問し、わかったことを振り返りカードに書く活動を行った。【ふかめる】では、なぜ御所市では菓づくりが盛んなのかという問いに、自分なりに考えた

ことを書く活動を行った。そして、それを付箋に書いてグループで意見を交流した。その際、絞って話し合いをさせた。視点を絞ることによって児童同士の間やりとりが生まれた。【ひろげる】では、置き薬のシステムについて考え、子どもとの繋がりや信頼関係で成り立っている商売であるということ考えた。

この取組における成果としては、付箋を用いることにより児童同士の話し合いができた点、振り返りカードの活用により習得の様子が把握できた点、地域教材を活用することで意欲的に取り組めた点等が挙げられた。

また課題としては、人との出会いという面について不十分であった点、グループ内の話し合い活動が終わってしまった点、働いている人の思いや工夫にまで迫れなかった点が挙げられた。

【研究協議から】

・付箋を貼る活動について詳しく教えていただきたい。  
↓グループで一つの意見になるようにした。多いからよい、少ないから悪いというようにならないよう気を付けた。しかし、結局多い意見がグループの意見になったことが残念であった。

・人と出会うことが大切。付箋を見学時に使ったらどうだったか。それを、模造紙等にみんなの付箋を一つにまとめても良かったのでは。また、グループで話し合いを終わらせずに、クラス全体で共有できればよかった。↓付箋を重ねてしまったので、平面的に並べるのも良いなと今感じた。全体に話を広げる活動はやはり必要だと考えている。

・どのようにして作られているのか、だけに注目して調べている感じがした。子から子へ受け

継がれてきていると意見を出した子の根拠はなんなのだろうか。↓教師からなぜ菓づくりは続いているのかな、誰かが知っていたのではないかなと、話したことから考えたと思う。

【指導助言】

御所市立秋津小学校 教頭 福井 忍先生

・生産と販売からは生産者の願いや思いというのがよくわかる教材である。いい教材を選んだ。・見学した場所も、調べるにはとてもいい場所であった。具体的で、触って、匂いもかぎられる。五感を使って見学できるところがよい。子どもたちは新たな御所市を知ったのではないかと感じた。教材を選ぶ時には子どもが面白いと思うものを選ぶとよい。面白いと思うのは、予想を覆したものが後でわかるということ。その意外性から子どもが調べてみたい、もっと知りたいなど考えることができる。教師自身がアテンションをはっているところ、に面白さをさがすようにしていることよい。また、子どもの興味も知っておくことが大事。

・ねり合いが深まらなかったという反省に対して出てきた意見がほぼ全て正解だったということとは反対意見が出なかったのではなか。違う意見が出やすいねり合いのテーマを考える必要がある。「ひろげる」でねり合うというのでもよかったかもしれない。

・教師自身が社会科を楽しむ視点が必要であり、答えを教えるあげるのでなく、答えに結びつく方法を教えることが大切である。

(桜井小学校 植松 朋之)

第4学年部会

「なくそう、こわい火事」

宇陀松山の古い町なみを火事から守り続けていくために

宇陀市立宇陀小学校

教諭 時 尚宏

【本実践における提案】

まず、「よりよい社会の形成に参画する力」を「地域の一人としての自覚をもち、よりよい地域にするために、自分たちができる具体的な活動」と考え実践を行った。実践にあたり、「災害から人々の安全を守る工夫や努力について、校区探検や消防署の見学、消防団員への聞き取りなどの人の営みに学び、自校区にある宇陀松山の古い町なみは火事に対して安全なのか話し合いをすることで、よりよい社会の形成に関わろうとする児童を育てることができるとい研究仮説を立てた。

宇陀松山の町なみは、既習の教材であるが、消防という視点に立つことで新たな発見に期待をした。さらに、地域の営みについて、そこに暮らす人々から話を聴くことで、人の営みに学ぶことができると考えた。

ねり合う段階では、活動を成功させるために5つのポイントを柱として据えた。①二者択一の対立的な学習課題の設定。②発表のルールを決める。③視聴覚機器の活用。④ネームプレートの利用。⑤根拠をもった話し合い。中でも①のポイント、対立関係を作ること、双方の話し合いが生まれること、まずどちらかの立場に立つことで、児童自らで価値判断が行いやすくなることをねらいとする大きな柱である。児童には、「宇



分科会での提案の様子

陀松山の町なみは、火事があつても本当に安全なのだろうか。というテーマで「安全である」「安全でない」の2つの立場で話し合わせた。

評価は、毎時間5分程度の振り返りと、ねり合い後の振り返りをルーブリックに照らし合わせることを2つで行った。ルーブリックについては、A、Cまでの3段階で評価したが、どのような場面で用い、どのような具体的規準を設けるかということについて、まだまだ研究の必要性を感じた。

【研究協議から】

・双方向の話し合いも大切だが、まずは児童が自らの意見をしっかりとつことが大切だ。  
・ねり合いで意見が極端に偏って対立した際、少数派の児童のモチベーションは大丈夫なのか。  
↓少数派には教員が加わることで、対立関係を維持できた。偏っている所に教員が反対意見をぶつけることで、児童に大きな揺さぶりをかけられるため問題ないのではないか。  
・ルーブリックの結果を見ると話し合いが成功したように感じるが、それは本当に話し合いで身についた力なのか、話し合い以前から持っていた力なのか、どこを見て判断するのか。

↓中心概念に迫れているかどうかで判断する。  
↓ねり合いの前後にルーブリック評価を行い、その変化で判断することもできるのではないかと。  
・ねり合いを重視した形の本実践は、今後ねり合いを行う実践の良い手本になったと思う。  
・ねり合いの前に、すでに児童は意見が固まっていたようだが、ねり合いによる深まりはあったのか。  
↓反対意見を聞くことで、自分の意見を深められた。意見の根拠をより強固にするために、地域の方の話を自分の意見に取り入れることができた。  
・ねり合いの評価をするだけでなく、その評価を児童に還すような取り組みも行うべきだ。  
・ルーブリックの評価規準や使用場面は、今後の学年部会で研究しなくては行けないと思う。  
・地域の方の話や防火設備を調べ、「これだけのことがあれば安全だ」という終末ではダメだったのか。  
↓誰かに守られるだけでなく、一人一人の防災への意識が大切だと気づかせたかった。  
・宇陀松山ならではの防災への取り組みは何かあるのか。  
↓狭い道幅を考慮し、災害時に関係車両が通るルートが綿密に決められている。水路や防火水槽の位置も把握している。  
・毎時間の評価はどのようにするのか。  
↓振り返りを書かせて、「押さえておくべき語句や内容」が書かれているかを確かめ評価とする。また、評価の規準を児童に示すことで、意欲の向上や記述の仕方の学習に繋がることも期待できる。  
・反対意見に対する反論も評価の対象に加えてはどうか。

・自分の意見を述べるだけでなく、反対意見を述べる場面も大切である。  
・二者択一ではなく、4段階程度に分けるとより変化が見えて良いかもしれない。  
・児童の発達段階に合わせて、ねり合いのレベルを考えていくことも今後重要になる。

【指導助言】

奈良市立平城西小学校

教頭 西口 美佐子先生

・先生の言葉とゲストティーチャーの言葉とは重みが違うため、ゲストティーチャーを招くことは大きな効果をもたらしたと思う。  
・ねり合いを対立構造にすることで意見の深まりは生まれるが、二者択一を取るかどうかは場面によって変えなければならぬ。

・仮説にある「安全」が、町なみにとっての安全かが曖昧。主語がわかるようなより具体的な記述が必要。また、ねらいを具体化することで、評価も行いやすくなると思う。  
・安全という部分に関連させて、法律やきまりを教えてみても良かった。  
・毎日の振り返りは書かせるだけでなく、児童が評価規準に気づき、規準に少しでも近づけるような手立てを考えていかななくては行けない。

(五條市立野原小学校 彼末 拓也)

第5学年部会

「これからの食料生産」

「わたしたちの食生活をみつめて」

桜井市立桜井南小学校 教諭 大矢根 祐子



学習の様子

【本実践における提案】

日本の食料自給率や食料輸入をめぐる問題について、食料生産の仕事に携わる地元の方々の事例を関連付けて学習した。そして、「これからの食料を安定的にまかなうために、どんなことを力を入れたらよいだろう」をテーマにねり合うこと、これからの日本の食料生産のあり方について、自らの考えを深められる児童を目指した。

「確かな教材づくり」では小単元とのつながりをもつて学ぶことに留意した。また、児童が主体的な学び、かつ、学びを深められるように、人との出会いや体験学習を大切にしたい。

「ねり合いの重視」では、全ての児童が具体的な知識を習得し、たうえでねり合いができるようにするために、資料の読み取りをしたり、用語をおさえたりする学習活動を丁寧に行なった。また、ねり合いの際、根拠を基に自分の考えをしっかりと述べるようにした。そうすることで、友達との考えとの共通点や相違点に気づき、比較することで、自分の考えが深まると考えた。

「学びに生きる評価」では、毎時間、問いについて予想や振り返りを書かせ、児童の知識

の習得や考えを見取っていった。また、社会の形成に参画する力がついたかを見取るためにルーブリックを用いて評価した。「食料を安定的にまかなうために力を入れるべきこと」について、「関心を持ち続けること」「自分たちでできること」「社会全体ですべきこと」の3つのキーワードを基準として設定し児童の発言や記述から評価した。

【研究討議】

・ルーブリックで厳密にA、Bと評価できるのか。複数の教師で評価を見ていく必要があるのではないかと。  
・多様な考え方ができるときのルーブリック評価は難しい。そのためにも、テーマ設定が大切である。

・知識の習得の確認をしたり、見通しをもって学習計画を立てたりするうえで、知識の構造図は役立つ。

【指導助言】

桜井市立大福小学校

教頭 半田 孝先生

ゲストティーチャーの多様さがよかった。ゲストティーチャーを招聘するときには、①本物と出会わせる。②意図を明確に③打ち合わせを綿密に④偏りすぎない(生産者ばかりなど)⑤児童の負担にならないように、という点に留意する。

・毎時間丁寧に振り返りを書き、次の時間に生かしている。指導と評価の一体化ができていて、単元のつながりを大切にしていることで一人一人の考えが高まっており、よくねり合えたのではないかと。食糧自給率が低いというマイナスイメージだけではなく和食が世界無形遺産に認定されたというプラスの側面も大切にしたいねり合いができていた。(広陵町立広陵東小学校 奥田 実)

第6学年部会

「明治の国づくりを 進めた人々」

―明治時代に生きた人々の 立場で考えよう―

教諭 前田 明日香

「本実践における提案」

歴史学習では、当時の人々に話を聞くことができないため、一つの出来事について他人事のように考えてしまいがちである。しかし、歴史の中にはそこに生きた人々の願いや思いがある。そういったことを児童に考えさせ、学習を深めたいと考えた。そこで、黒船来航から自由民権運動までを取り上げ、なぜ江戸幕府は倒れたのか、どのような人々が明治政府を作り、どのような改革を行ったのか、など常に疑問をもちながら学習に取り組むことにした。また、その時代の人の立場になり振り返りを行ったり、様々な立場から明治の諸改革について考えるねり合いをしたりすることにより、当時の思いや願いを自分事として考え、現在の自分たちの生活とのつながりについて考えられる児童を育てたいと考えた。これらの考えから仮説を設定し、研究を進めた実践である。



学習の様子

【研究協議より】

・資料を活用することで、当時の人々の様子を想像することができ、継続的に興味をもち学習に取り組むことができた。  
・常に疑問をもちながら学習に取り組みむことで、次の学習の課題が明確になり、進んで学習に取り組むことができていた。  
・ねり合いでは、話し合いを通して江戸時代の政策と比較したり、現代とのつながりについて考えるなど、多面的な考えをするようになった。  
・「幸せだったか」という課題が、各々の考える幸せの形が違うのでねり合いの課題としては適切ではなかった。ねり合いの課題を考えるときは、児童の実態を考慮して、考える必要がある。  
・当時の人々の立場で考えることで、生活の変化や明治の諸改革について、どのような思いや願いをもっていたのかを、自分事として考えることができた。また、児童の振り返りから、児童の理解度を見取ることができ、次時の授業に役立てることができた。  
・「ひろげる」段階で、明治のときの改革と現在のつながりを探すことに十分に時間をとることができなかった。多くのことを調べるのではなく、一つのことを絞って全員で調べる活動を通すなどして、当時の人々の「願い」に気づければ「ひろげる」の学習になるのだと思う。

・少数で学習する利点として、形成的評価がしやすいことが考えられる。しかし、活発な話し合いができず「ねり合い」の活動が難しかった。時間はかかったが、ペア学習から、グループ学習につなげることににより、意見が言いづらぬ児童にも発言する場、意見が反映される場が多く与えられたことはよかったと思う。「ねり合い」をすること

によって、児童が新しい見方に気づいたり、考えたりすることができた。

【指導助言】

生駒市立生駒小学校 教頭 山中 賢司先生

・「ねり合い」をすることによって、人の考えから学んだり、自分も考えたりする場が設けられる。そうすることによって、学習が深まる。また、社会の見方や考え方を広げることができ、ねり合いの中で「事前・事中・事後」を行う事が大切である。「事前」は仮説を立てること、「事後」はねり合ったことの検証をすることである。途中でねり合いを終える事があるが、きちんと事後まで学習することが重要である。  
・教科書の内容をなぞるだけの授業になってしまうと、児童は他人事と捉えてしまったり、自分には関係のない話と受け取ってしまったりする。そのため、本実践のように自分事として考える機会を設けることは大変よいことである。しかし、「幸せ」の基準が人によって違うため、話し合いの課題としては難しかったのではないだろうか。  
・ねり合いの一つとして、事実をしっかりと調べ、その調べたことを自分事のように考えることができると、学びが深まっていくのではないかと考える。本実践の中で児童が「平民・士族・華族」の立場で情報を集め、その情報を根拠に話し合いを行っていた。これは学びを深める上で、効果的な一つの方法であったと考える。

・事実をどのように学習に活かしていけばよいのか、ゲストティーチャーに来てもらうかなども含めて、ひと手間かけて授業を行うことにより、学びを深める

●地域の学習材● 奈良テレビ放送株式会社 (奈良市)

奈良テレビ放送は、昭和48年に開局し、奈良県全域を放送エリアとする民間テレビ局です。「奈良県民のテレビ局」として地域に密着した情報を発信することに加え、奈良県の産業発展に寄与すべく、各種イベントの開発や特産品の販売など様々なことに取り組まれています。

見学の内容

- ①会社概要や放送局の仕事・見学についてなどの説明
- ②社内見学
- ③メインスタジオ「ゆうどキッツ」など収録しているスタジオの仕組みやスタッフの役割などの学習。番組セット前で写真撮影。本番カメラを使って見学の様子をモニターに映し出します。
- ④副調整室スタジオの映像、音声、照明の切り替えや調整を行い、番組全体をコントロールします。
- ⑤ニューススタジオ
- ⑥「TVNニュース」などの番組を収録します。実際の原稿を読むアナウンサーの体験ができます。(2名程度)
- ⑦主調整室 放送局の心臓部です。放送番組やCMを放送運行リストに従って途切れることなく送信所へ送り出します。
- ⑧送信鉄塔 高さ42メートルの

送信鉄塔に設置されたアンテナから生駒山の送信所に向けて放送電波を放射します。

放送局の方から

児童の移動時間を含め40分と短い時間で社内色々な施設を見学頂くため、可能な限り、事前に下見などの来社をお願いいたします。授業の内容に沿う形で会社見学を実施できるように、ご要望をお聞かせ下さい。テレビ局の見学は楽しいと感じる児童が多いですが「楽しかった」という気持ちに加え、「何を学んだのか」を理解できれば、テレビへの親しみがより深まると思います。

お話を聞かせて頂く中で放送局の仕組みや裏側を丁寧に説明して頂けました。また、出前授業放送・番組作りに関わって行われていることや、スポンサーの会社の見学などにも相談のって頂けるなど、実際に足を運ぶことでたくさんのお話を教えていただけました。職員研修も受け入れておられます。一度、奈良県の民間放送局に足を運ばれてみてはどうでしょうか。



古都奈良の歴史的建造物をイメージした社屋より奈良の情報を発信

奈良市法蓮佐保山3-1-11  
電話0742-24-2900  
見学料 無料  
昼食可(会議室)  
駐車場 30台 観光バスも可  
※事前予約制、見学希望日の10日以上前に電話でご予約下さい。